

国際原子力エネルギー協力フレームワーク（IFNEC） 第8回執行委員会（EC）会合等の結果概要について

平成29年11月21日
内閣府
原子力政策担当室

平成29年11月6～9日、IFNEC第8回執行委員会会合ほか関連会合が、フランスのパリにおいて開催された。日本から進藤内閣府原子力政策担当室次長が出席（11月7日～9日）、結果概要を以下のとおり報告する。

1. 開催日程・場所

- (1) 平成29年11月6日：IFNEC基盤整備作業部会・燃料供給サービス作業部会
- (2) 平成29年11月7日：IFNECアドホック需給国関係会合
 標題：「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション」について
- (3) 平成29年11月8日午前：IFNECアドホック需給国関係会合
 標題：同上
- (4) 平成29年11月8日午後：運営グループ（SG）会合
- (5) 平成29年11月9日：IFNEC執行委員会会合
 全会合：UICコンファランス・センターにおいて開催

2. 主要参加国・機関

(1) IFNEC執行委員会会合

- ① 正式参加国18か国、オブザーバー2か国、国際機関3機関。
- ② 主要国代表者
 - ・フランス（EC議長国）：レイザー・スーリ 原子力・代替エネルギー庁（CEA）国際局局長（議長国挨拶の後 IEA（国際エネルギー機関）会合への出席のため退席、その後同局ミュセット氏が議事進行を代行）
 - ・アルゼンチン（SG議長国）：ガダノ エネルギー鉱業省次官（原子力担当）
 - ・日本（SG副議長国）：進藤 内閣府原子力政策担当室次長
 - ・中国（SG副議長国）：リョウ・バオフ 国家能源総局副局長

(2) 関連会合

① IFNEC運営委員会会合

執行委員会への報告・提案の事前審議会合としての位置付けで、執行委員会参加者とほぼ同様のメンバーが参加した。

- ② 基盤整備作業部会、燃料供給サービス作業部会、アドホック需給国関係会合
 各国原子力行政機関・研究機関、国際機関などが出席した。

3. 会合結果

(1) 全般

① アドホックグループ会合

日本が創設時より尽力したアドホック需給国関係会合が本年発動し、規制当局等従来にない多彩な参加者を得て、活発な議論がなされた。同会合が IFNEC 会合全般を

刺激して成功裏に終わったことから、同グループの今後1年の任期延長が認められた。

② 次期 EC 会合の開催地

次期 EC 会合を日本で開催されることが認められた。

(2) IFNEC 執行委員会会合

① 議長国からの歓迎挨拶

レイザー・スーリ 原子力・代替エネルギー庁 (GEA) 国際局局長から、化石燃料による地球温暖化防止のため原子力は重要な位置を占め、その推進に向けて活動する IFNEC には価値がある旨の表明があった。

② 出席国による表明

出席国・国際機関による各国の現状説明があり、日本は進藤審議官より、我が国の原子力事情、原子力政策の進展、IFNEC に対する貢献及び期待等について、意見表明を行った。

③ 作業部会からの報告

基盤整備作業部会 (11月6日午前開催) のブカート、マチソン両共同議長及び燃料供給サービス作業部会 (11月6日午後開催) のタイソン、ザガー両共同議長より両部会の活動状況、今後の活動・展望について報告があった。

基盤整備作業部会からは、特に本年、IAEA 等の関係機関と協力しつつ、ステークホルダー等も交えた「廃棄物」に関するワークショップや事故発生国における廃炉措置等多彩なワークショップを行った旨、発言があった。

また、燃料供給サービス作業部会からは、特に IAEA、OECD 等部外機関、基盤整備部会、アドホックグループ等部内機関等の同部会に対する謝辞が述べられ、今後とも IAEA 等関係機関と連携して重複課題を避けつつ多方面の活動を行う旨、発言があった。

④ アドホック需給国関係会合 (11月7、8日開催) 報告：進藤共同議長

昨秋の執行委員会で発足が認められて以降、(a) TOR (Terms of Reference) の作成、(b) 「安全、プロジェクト形成、ファイナンス、パブリックアクセプタンス」の4領域の設定及び各領域で検討すべき主要課題(キークエストion)の検討を進める一方、(c) 4月の準備会合において、「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション」を当面の検討テーマと決定して、6月の運営委員会会合開催時にあわせた第一回アドホック会合では5人の専門家によるパネルディスカッションを開催した。また11月の執行委員会会合時にあわせた第二回アドホック会合では19人の専門家によるパネルディスカッションを開催したところ、需要国・供給国・規制当局・供給企業・需要企業等多彩な参加を得て、需要国・供給国の異なる立場から見たサプライチェーンという新たな視点を得て、従前の課題においては見だし得なかった新鮮な議論をもたらした旨の報告があった。

⑤ その他

- ・事務局からの報告：本年の IFNEC 会合の結果報告・来年の活動予定、予算執行状況について報告があった。
- ・アドホック需給国関係会合：アドホック需給国関係会合を新たに一年間継続することが決定された。
- ・次期開催：年末に予算が確定すれば、日本が来年秋にホスト国になる旨、表明があった。
- ・共同声明が最終審議され、採択された。

(3) 関連会合

① 運営グループ会合

- ・ 各国代表挨拶：会議開催に当たり、各国出席者から自己紹介があった。
- ・ 運営グループ議長からの報告：(a) IAEA 総会のサイドイベントとして IFNEC の活動紹介を行ったこと、(b) 前運営グループ議長マクギネス氏から現グループ議長ガダノ氏への議長交代と移行期の終了、(c) 共同声明案の文章表現等細部調整、(d) 次期 IFNEC 開催予定地を日本にすること、(e) アドホック需給国関係会合については、1 年延期して常設化の判断を待つとの提案があった。
- ・ IFNEC 事務局からの報告：IFNEC の活動状況・予算執行状況（2016 年 10 月から 2017 年 10 月への繰越予算）について説明があった。

② アドホック需給国関係会合

11 月 7 日、8 日午前、進藤審議官を議長（グロッシ共同議長は欠席）として開催。会合冒頭、NEA マグウッド氏より IFNEC の日頃の活動に謝意を示すとともに、アドホック会合が高品質のグローバルスタンダードを形成する上で重要である旨、発言があった。

・ 11 月 7 日終日

議長から参加者・事務局等に対する謝辞があり、アドホック需給国関係会合の設立経緯・目的等の説明の後、午前は、「国際的視点からのグローバル・サプライチェーンとローカライゼーションにおける主要課題」について WNA, IAEA, NEA からプレゼンテーションがあり、その後、「ローカライゼーションに関わる主要課題」についての紹介が原発需要国 8 か国（計画中 3 か国及び導入済 5 か国）からあった。

需要国の多くがローカライゼーションの持つ雇用・経済効果への期待を表明する一方、参加者の中からは、ローカライゼーションはコストが掛かるがそれだけの見返りがあるのかという質問があり、長期的に見れば安全や品質向上等の面で利する旨の回答もあって、日頃接しない意見があって参加者の関心を惹くセッションとなった。また午後は、「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション」に関わる 6 供給企業の経験について、プレゼンテーションがあり、その後質疑応答で、供給企業は安全確保やコストを重視し、ローカライゼーションに関わる原発需要国との間の問題意識の違いも浮き彫りになる意義あるパネルとなった。

・ 11 月 8 日午前

進藤議長より前日の概要及び当日の議事進行の説明後、前半は 6 月の SG 会合での話題を反映して、規制当局 4 機関により、需給国側の品質保証、安全保証に関わる法的・制度的説明、経験談等があり、その後、質疑応答となった。従来の IFNEC 会合では規制当局自体の参加が稀なこともあってか、参加者の関心をひき、特に原発需要国からは活発で切実な質問が出され、後半のその他の質疑応答の時間も熱のこもった議論がなされた。

4. その他

- (1) SG 議長ガダノ氏より、本年の IFNEC 会合の取組と今後の展望について報告があり、特に 2018 年にアルゼンチンで開催される G20 地域首脳会合で原子力の位置付けについて議論すべく、来年 6 月頃会議を開催することも念頭に、今後 1 か月くらいで具体的な提案をまとめ各国と相談したい旨、発言があった。これに呼応してカナダから、現在クリーンエネルギー閣僚会合（CEM）において日米加が共同提案中の原子力に係るイニシアチブのキックオフ会合を 5 月にコペンハーゲンで予定しており、互いに

連携してはどうかとの提案があった。今後前向きな調整が進むことが期待される。

- (2) 米国から、エネルギー省として、原子力に関わる若手の啓発のため、ミレニアル・ニュークリア・コーカスというグループを創設し、その活動を支持し、若手人材育成に取り組んでいる旨、発言があった。関連して、NEA のマグウッド氏より、日本の女性研究者育成支援の取組について、紹介しながら、ダイバーシティの重要性が強調された。両人材育成の紹介については、説明の後、それぞれビデオによる紹介活動もあった。

参考URL

- ・ ミレニアル・ニュークリア・コーカス
<https://energy.gov/articles/secretary-energy-rick-perry-met-young-leaders-nuclear-community-millennial-nuclear-caucus>
- ・ 日本の女性研究者育成支援
<http://www.qst.go.jp/information/itemid047-002830.html>

5. 参考事項

(1) IFNEC 執行委員会会合の出席国

- ① メンバー国：アルゼンチン（SG 議長国）、日本（SG 副議長国）、中国（SG 副議長国）フランス（SG 副議長国）、アメリカ合衆国（前 SG 議長国）、アラブ首長国連邦、アルメニア共和国、イギリス、オーストラリア、オマーン、カナダ、韓国、セネガル、ドイツ、ポーランド、ヨルダン、ルーマニア、ロシア連邦（計 18 国）
- ② オブザーバー国：ウガンダ、エジプト
- ③ 国際機関：Euratom（欧州原子力共同体）、OECD/NEA（経済協力開発機構／原子力機関）、IAEA（国際原子力機関）

(2) 添付資料

- 添付 1：第 8 回執行委員会共同声明（英文）
- 添付 2：第 8 回執行委員会共同声明（仮訳）